

ヤマモトの「赤鶏」種鶏

ハバードレッドブロに名称変更

日本人の嗜好に合った、美味しい鶏肉を供給することをモットーにしている(株)ヤマモト(山本淳一社長―京都府亀岡市保津町上火無六六―二)は、長年にわたって取り扱ってきたフランス産赤鶏の種鶏「シェーバードレッドブロ」の名称を「ハバードレッドブロ」に変更した。

ハバード・イサ社の採卵鶏部門はオランダのHG社(ヘンドリック・ジェネティクス)に、ブロイラー部門はフランスのグリモーグループに入り、「シェーバー」の名称を使える三年間が経過したため、変更したたもの。

これに伴い、レッドブロの日本の普及組織も「ハバードレッドブロ協会」に変更する。

「レッドブロ」は、フランスの高品質鶏肉(赤ラベル)の生産向けに改良されてきたもので、ヤマモトが輸入発売元として長年にとって普及に努め、日本における赤鶏としてのシェアが最も高い鶏種。親会社がグリモーグループに変わってからも、育種改良や、世界の供給拠点体制確立に向けての積極投資が行なわれている。

育種改良面では、飼料要求率や肉の歩留まりなどの改良が進んだ

ほか、GGPやGPをフランス以外の英国、ポーランド、ブラジルなどに持って、世界への安定供給拠点としているため、鳥インフルエンザなどで万一の場合があっても、供給に心配がない、としている。

